

報道関係者各位

2021 年 9 月 吉日

第 80 回 虎屋文庫資料展のご案内

こんなところにも！「和菓子で楽しむ錦絵」展

2021 年 9 月 17 日(金)～11 月 23 日(火・祝) 休館日:10 月 6 日(水)、11 月 6 日(土)

虎屋 赤坂ギャラリー[とらや赤坂店 地下 1 階] 東京都港区赤坂 4-9-22

地下鉄赤坂見附駅A出口より徒歩 7 分 入場無料

祭礼で縁起物の菓子を求め、旅先の茶店では餅や饅頭でひと休み。錦絵には甘いものを楽しむ人々の姿がしばしば見られます。今回は虎屋文庫所蔵の菓子関連の錦絵から、江戸～明治時代のものを中心に約 100 点選び、菓子とともに展示いたします。なかには目立たぬところに描かれているものも……。会場の見どころをご紹介します。

1、くらしの中の菓子 ～四季折々に親しむ～

錦絵に、子どもたちが端午の節句に柏餅を食べるさまや、年末に大勢で餅を搗くさまが描かれているのを見ると、1 年を通じ菓子が楽しまれていたことがうかがえます。多くはおなじみのものですが、かつて西の市の縁起物だった栗餅・黍餅(写真①)のように、錦絵でしか見られない菓子もあります。 ※現在は、山椒風味の新粉餅「切山 椒」が知られる。

2、病を退け 福を呼ぶ ～疱瘡には赤い色が効果あり～

江戸時代、死の病と恐れられた疱瘡(天然痘)に効果があると信じられたのは、なんと赤い色。赤一色で摺った菓子袋に赤い色の干菓子を入れたものなどが見舞いの好適品とされました。袋には、病魔退散と回復を願うさまざまな意匠が……。達磨は「病から起き上がる」。では、富士山は何を表しているのでしょうか。答えは会場にて。

3、名物菓子と菓子屋 ～桜餅がいっぱい！～

桜の名所、隅田川の名物といえば桜餅。竹籠に入れ売られるのが定番で、錦絵でも嬉しそうに竹籠を提げる人々の姿が見られます。今回、所蔵する桜餅関連の作品を全て展示いたします。行楽気分でご覧になってみてはいかがでしょうか。

4、芝居で楽しむ ～歌舞伎役者への贈り物～

江戸庶民最大の娯楽とされる歌舞伎。上演の際には鬘肩筋から人気役者へ井籠(菓子を入れて運搬する容器)を贈り、芝居小屋の前に高く積む風習(積井籠)がありました。会場ではその様子をグラフィックで再現します。

5、旅でひと休み ～茶店であじわう～

「東海道五十三次」ほか旅の情景を描いた錦絵では、旅人が街道を行き来し、茶店でおいしそうに餅や饅頭などを食べる姿を見ることができます(写真②)。なかには「旅の恥はかき捨て」とばかりに少々羽目を外している人たちもいますが、甘いもので旅の疲れを癒したいと思うのは、今も昔も変わらないといえるでしょう。

主な展示品

錦絵ほか約 100 点、再現菓子約 30 点、版本ほか。

***掲載の画像につきましてはデータがございます。お問い合わせください。**



① 江戸名所百人美女 とりのまち

「とりのまち」とは西の市のこと。
左下に栗餅・黍餅が描かれている。



② 東海道名所之内 権太坂

東海道、権太坂（神奈川県）の茶店で、
名物のきな粉のぼた餅を武士が楽しんでいる。

限定菓子の販売

あわもち

『栗餅』餅製 御膳餡入 486 円（税込）を、赤坂店で販売いたします。

販売期間：9 月 27 日～10 月 31 日（10 月 6 日は休業）

栗餅の曲 搗き*を取り入れた歌舞伎舞踊を描いた錦絵にちなんでいます。
粒のままではなく粉にした栗を用い、なめらかな口あたりに仕上げました。
*おかしな身ぶりで歌いはやしながら餅を搗くこと。



このほか、赤坂店フリースペースにて、手摺り木版商品の販売も予定しております。

お問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂 4-9-9 赤坂 MK ビル 2 階

株式会社 虎屋 虎屋文庫

Tel: 03-3408-2402 Fax: 03-3408-4561 E-mail: bunko@toraya-group.co.jp

<https://www.toraya-group.co.jp/>

取材・限定菓子については Tel: 03-3408-4128（株式会社虎屋 マーケティング部広報）

※ 新型コロナウイルス感染症予防措置を講じたうえで開催いたします。ご来場の際は、マスクの着用、手指の消毒、検温等のご協力をお願いいたします。

※ 緊急事態宣言や感染拡大の状況により、開催期間などを変更する場合があります。最新情報はホームページにてご確認ください。